

授業科目名： 建築材料力学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 秋吉善忠 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・軸方向力を受ける部材の応力とひずみを求めることができる。 ・曲げモーメントを受ける部材の応力および変形量を求めることができる。 ・せん断力を受ける部材の応力および変形量を求めることができる。 ・偏心荷重を受ける部材の応力および変形量を求めることができる。 ・モーメントを作用させる部材の応力状態、主応力とその方向性を求めることができる。 			
授業の概要 <p>材料力学は構造物に外力が作用したときに、各部に生ずる応力や変形を明らかにする学問であり、建築構造学を学ぶ上で基礎となるものである。本講義では、応力や変形を原理的に理解するとともに、各部材の応力や変形を解析できる能力を身につける。工学の具体的・実証的な問題、特に建築構造物の各部材を対象とした問題の解析、すなわち、荷重に対して安全であるように部材断面の大きさを決定し、材料を適切に選択する手順を学ぶ。</p>			
授業計画 <p>第1回 応力とひずみ 第2回 軸方向力を受ける部材①（応力計算） 第3回 軸方向力を受ける部材②（変形計算） 第4回 中間試験①（第1回～第3回の内容） 第5回 中間試験①解説、はりの曲げ応力①（応力計算） 第6回 はりの曲げ応力②（変形計算） 第7回 はりのせん断応力①（応力計算） 第8回 はりのせん断応力②（変形計算） 第9回 偏心荷重を受ける部材①（応力計算） 第10回 偏心荷重を受ける部材②（変形計算） 第11回 中間試験②（第5回～第10回） 第12回 中間試験②解説、モーメントの応力円①（数値計算） 第13回 モーメントの応力円②（図式計算） 第14回 レポート解説 期末試験 第15回 期末試験解説</p>			
テキスト <p>「建築構造力学」津田恵吾 編著，オーム社（建築構造力学1と同じ）</p>			
参考書・参考資料等 <p>「建築材料力学」榎並昭著，彰国社</p>			
学生に対する評価 <p>期末試験 40%，中間試験 30%，レポート 30%。再試験の成績は、再試験のみで評価する。</p>			

授業科目名： 建築基礎構造	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大谷俊浩
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤の生成，土の分類，土のせん断強さ，土圧について，理解する。 ・基礎の構造，擁壁の構造，土留め壁の構造について理解する。 ・地盤の支持力の推定方法，沈下量の算定方法，杭の支持力の推定方法を修得する。 			
授業の概要			
<p>建築構造物は，地盤の上に構築されるものであり，優れた建築物の設計施工には地盤や基礎構造の理解が必要不可欠である。本講義では，地盤の性質や基礎構造の設計施工の基礎的な原理を学ぶ。具体的な到達目標として，地盤の生成，土の分類，土のせん断強さ，土圧，基礎の構造，擁壁の構造，土留め壁の構造について理解し，地盤の支持力の推定方法，沈下量の算定方法，杭の支持力の推定方法を修得する。</p>			
授業計画			
第1回 本講義の位置づけ，基礎構造概説			
第2回 土質と地下水			
第3回 土の圧縮と圧密			
第4回 土のせん断強さと土圧			
第5回 地中応力			
第6回 演習①（土圧関連）			
第7回 地盤調査，直接基礎の設計			
第8回 地盤改良			
第9回 直接基礎の鉛直支持力，直接基礎の沈下			
第10回 基礎フーチングの設計法，杭基礎の分類			
第11回 鉛直方向荷重に対する杭基礎の設計			
第12回 杭基礎の鉛直支持力における問題，水平方向荷重に対する杭基礎の設計			
第13回 擁壁および土留め壁			
第14回 演習②（基礎関連）			
期末試験			
第15回 期末試験解説			
テキスト			
「建築基礎構造」 富永晃司編著，オーム社			
参考書・参考資料等			
最初の講義で紹介する。			
学生に対する評価			
期末試験（60%）と演習課題（40%）。再試験については再試の成績のみで評価する。			

授業科目名： 建築材料実験	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大谷俊浩，秋吉善忠
			担当形態： 複数
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・工業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートの調合設計方法を理解する ・骨材試験を通して骨材の材料特性の理解する ・フレッシュモルタルおよびコンクリート試験を通してフレッシュ時の特性を理解する ・コンクリートおよび鉄筋の強度試験を通して各材料の強度特性を理解する ・既存コンクリート構造物の各種品質評価試験方法を実施できる ・各種試験データをエクセルで処理し，グラフを作成し結果を評価できる 			
<p>授業の概要</p> <p>建築材料の諸特性を実際に手に触れることで視覚的，感覚的に理解し，建築材料に関する知識を深めることを目的としている。具体的には，骨材試験，フレッシュモルタルおよびコンクリートの諸特性評価試験，コンクリートの調合作成および供試体作製，硬化コンクリートの強度試験および鉄筋引張試験を行う。また，実物模型を用いた既存コンクリート構造物の各種非破壊試験を実施し，その品質評価方法について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 本講義内容の位置づけ，建築材料実験の概説（講義）</p> <p>第2回 セメントの製造方法と品質試験，環境負荷低減効果（講義）</p> <p>第3回 各種試験方法（講義）</p> <p>第4回 骨材試験</p> <p>第5回 フレッシュモルタルの各種品質評価試験</p> <p>第6回 コンクリートの調合設計方法（講義）</p> <p>第7回 コンクリートの調合設計</p> <p>第8回 コンクリートの打設，供試体の作製</p> <p>第9回 モルタルの強度試験</p> <p>第10回 レディーミクストコンクリート（講義）</p> <p>第11回 表計算ソフトを用いたデータ整理法</p> <p>第12回 コンクリートの強度試験</p> <p>第13回 既存コンクリート構造物の品質評価試験</p> <p>第14回 既存コンクリート構造物の非破壊品質評価試験</p> <p>第15回 鉄筋の引張強度試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「建築材料（第3版）」小山智幸ほか，朝倉書店（講義：建築材料と同じ教科書を使用）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>参考書を指定しない。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート 100%。再試験は実施せず。</p>			

授業科目名： プログラミング HI	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 富来礼次、島津勝 担当形態： 複数
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 プログラムの作成方法、数式のプログラム表現方法、科学技術計算手法、計算アルゴリズム構築能力を習得し、コンピュータプログラミングを通して論理的思考能力と応用力を習得する。			
授業の概要 現在、コンピュータの性能は、急速な勢いで進歩を遂げており、情報化に対応する技術が工学分野で必要不可欠となっている。建築分野、特に設計工学においても、景観・計画解析、構造解析や環境解析に応用され、重要なツールとして設計技術の一翼をなしている。本講義では、今日の急速な情報化に対応した建築技術者として応用解析が可能となるよう、プログラミング技術の習得を目的とした講義と各自による演習を交互に行う。			
授業計画 第1回：コンピュータ言語と科学技術計算 第2回：算術演算の基本操作 第3回：繰り返し処理と関数 第4回：関数とグラフ表現 第5回：条件判断 第6回：プログラム作成演習、中間試験 第7回：構造化処理 第8回：多次方程式の解 第9回：数値積分 第10回：配列①：データ記憶 第11回：配列②：行列演算 第12回：建築工学プログラム作成演習、期末試験実技 第13回：透視図の作成①、作成方法の習得 第14回：透視図の作成②、自由課題作成 第15回：まとめ 期末試験			
テキスト 教科書は使用せず、適宜講義資料を配布する。			

参考書・参考資料等

パソコンを遊ぶ簡単プログラミング—コンピュータを自由に操る「十進BASIC」入門（村良夫 著、ブルーバック
ス、講談社）

学生に対する評価

中間試験（実技）（20%）、課題（40%）、期末試験（実技、筆記）（40%）

授業科目名： 建築構法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒木正幸、大谷俊浩、柴田建 、田中圭、島津勝、秋吉善忠 担当形態： オムニバス
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・工業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>建築物の構造システム、建築形態と構造、建築要素の構法、各種構造における構法、地震による建築物の被害とその教訓、および構造設計の概要について習得し、設計演習において適切な構造の選択ができる力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>これから建築学を学習していく出発点として、建築物の構造システムや建築形態とそれに相応しい構造材料・構造方式、および各種構造における構法を学習するとともに、建築物の地震や台風などによる自然災害の事例を通して、構法計画の重要性を認識する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス (担当：大谷俊浩)</p> <p>第2回：建設業界の仕組み (担当：秋吉善忠)</p> <p>第3回：建築構法原論 (担当：柴田建)</p> <p>第4回：建築要素の構法①（屋根、壁、床） (担当：柴田建)</p> <p>第5回：建築要素の構法②（天井、階段、建具、造作他） (担当：柴田建)</p> <p>第6回：建築実物模型を活用した建築要素の解説と見学 (担当：柴田建)</p> <p>第7回：鉄骨構造 (担当：島津勝)</p> <p>第8回：木質構造①（木材利用と地球環境保全） (担当：田中圭)</p> <p>第9回：木質構造②（木造建築あれこれ） (担当：田中圭)</p> <p>第10回：コンクリート系構造①（構造材料、構造設計、構造方式） (担当：島津勝)</p> <p>第11回：コンクリート系構造②（主要構造要素、地震被害） (担当：黒木正幸)</p> <p>第12回：組積造・コンクリートブロック塀 (担当：黒木正幸)</p> <p>第13回：基礎構造①（基礎の概要と地盤） (担当：大谷俊浩)</p> <p>第14回：基礎構造②（基礎の種類と構法） (担当：大谷俊浩)</p> <p>期末試験</p> <p>第15回：試験解説 (担当：田中圭)</p>			
<p>テキスト</p> <p>新建築学シリーズ「建築構法」（監修：中村洋監修、編集：福田晴彦、松藤泰典、著者：井上</p>			

正文、片野博、菊池健児、徳富久二、朝倉書店)

参考書・参考資料等

「構造用教材」(日本建築学会)、その他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

期末試験(50%)、課題レポート(50%)

授業科目名： 建築ワークショップ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：黒木正幸，大谷 俊浩，富来礼次，柴田建，田 中圭，島津勝，岡本則子，姫 野由香，秋吉善忠
			担当形態： クラス分け・複数
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・工業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門領域の各分野で行われている研究の概要と学術的位置付けを知る 2. 卒論着手時に必要な専門科目，英語，プログラミング，設計，その他基礎的スキルのレベルを知る 3. 実験等において担当箇所を責任をもって遂行する能力（人・時間・器機類のマネジメント，不測時の対処方法，説明・議論）の涵養 			
<p>授業の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築学の環境／計画／構造／材料各サブプログラムにおける各人の方向性を絞る 2. 専門として目指す科学技術等の位置付けを知り，卒論完成に必要とされる基礎知識を培う 3. 各人の将来の研究者や技術者・建築士としての目標を明確化していく 4. 研究室の活動に参加し研究者や技術者・建築士に必要とされる責任感や倫理概念を培う 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（本講義の位置づけと目的）</p> <p>第2回：各専門分野の最新動向と今日的課題の詳説</p> <p>第3回：各専門分野の最新技術の詳説</p> <p>第4回：各専門分野の研究概要の詳説</p> <p>第5回：各専門分野において必要な基礎的スキル</p> <p>第6回：CiNiiやOPACなどの論文検索システムの活用</p> <p>第7回：論文検索システムを活用した国内の研究動向の調査とレビュー</p> <p>第8回：論文検索システムを活用した国内の研究動向の要約</p> <p>第9回：調査結果の発表と討論</p> <p>第10回：各専門分野の演習～演習の準備～</p> <p>第11回：各専門分野の演習～演習のプレテスト～</p> <p>第12回：各専門分野の演習～演習の実施ととりまとめ～</p> <p>第13回：各専門分野の演習～とりまとめ結果の発表～</p> <p>第14回：今後の研究に関する討論</p> <p>第15回：成果発表，成果物（ポートフォリオ）提出及び講評</p>			
<p>テキスト</p> <p>適時関連資料を配付します。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適時関連資料を配付します。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>課題・レポート（50%）、プレゼンテーション・討論内容（50%）</p>			

授業科目名： 工業概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岩本光生，工藤孝人，菊池武士，大谷俊浩，岡本則子
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 工業の基礎的な知識と技術を習得することで，現代社会における工業の意義や役割を学ぶ。環境やエネルギーの問題にも配慮しながら，持続可能な発展を遂げるには，技術立国としての進むべき道はどのようにあるべきか，自分で考えるきっかけになるような課題設定を行い，広範な工業の中から主要な課題に着目して工業の原点を履修する。			
授業の概要 工業科目の中から機械工学，電気電子工学，メカトロニクス，建築学の主要な技術について学修する。技術者として要求されるデザイン力，解析力，知識・技能を活かす実践力や課題解決能力を演習や課題レポートを含めた総合的・多角的な教育の展開により修得することを目指す。			
授業計画 第1回：工業技術基礎－機械編：流体の流れと熱の流れ（岩本） 第2回：機械設計・製図の基礎，CAD，工作機械，機械加工法（岩本） 第3回：機械工作法，機械材料（岩本） 第4回：工業技術基礎－電気編：電気・磁気・光に関する研究と技術発展の歴史（工藤） 第5回：通信媒体としての電磁波に関する基礎的事項（工藤） 第6回：電磁波と現代生活との関わり（工藤） 第7回：電磁波のコンピュータシミュレーション（工藤） 第8回：メカトロニクス基礎（センサ，アクチュエータ，機構，コントローラ）（菊池） 第9回：ロボットの設計（機構図，運動学，静力学）（菊池） 第10回：ロボットの解析（コンピュータを用いたシミュレーション演習）（菊池） 第11回：ロボットの解析2（コンピュータを用いたシミュレーション演習2）（菊池） 第12回：工業技術基礎－建築編：建築材料学・施工学の基礎（大谷） 第13回：建築構造物の維持管理・リサイクル（大谷） 第14回：建築・環境音響学の基礎，室内音響（岡本） 第15回：建築・都市における騒音問題（岡本）			
テキスト 使用しない。必要に応じてプリントを配付する。			
参考書・参考資料等「高等学校学習指導要領解説 工業編」，文部科学省編			
学生に対する評価 演習・レポート：100%			

授業科目名： 職業指導	教員の免許状取得のための 必修科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：岳野公人 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	職業指導 ・職業指導		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>職業指導は現在、キャリア・ガイダンス(キャリア教育)と呼ばれているように、単なる進学・就職への指導ではなく、その本質は人間の生き方や人生設計の教育である。職業指導(キャリア・ガイダンス)の目的は、キャリア・モデルの視点に立って、人間発達を促進することにある。そのため、キャリア・モデルやキャリア発達に関する理論(アプローチ)の理解は不可欠である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、主として、職業指導(キャリア・ガイダンス)の意義と歴史、職業指導(キャリア・ガイダンス)を支える理論(アプローチ)と方法について理解するとともに、生き方の教育としての職業指導(キャリア・ガイダンス)に関する実践力を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：現代のキャリアにかかわる問題</p> <p>第3回：職業指導の歴史的展開</p> <p>第4回：学校教育における職業指導・進路指導の意義と役割</p> <p>第5回：進路指導の実際</p> <p>第6回：心理検査利用について</p> <p>第7回：進路情報の収集</p> <p>第8回：情報ツールについて</p> <p>第9回：進路相談ケースワーク</p> <p>第10回：研究論文を利用した進路指導演習</p> <p>第11回：視聴覚教材を利用した進路指導演習</p> <p>第12回：ワークシートを利用した進路指導演習</p> <p>第13回：グループディスカッションを利用した進路指導演習</p> <p>第14回：プレゼンテーションを利用した進路指導演習</p> <p>第15回：これからの進路指導とキャリア教育</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト 必要なプリントを配布する。</p> <p>参考書・参考資料等 特になし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験の受験資格は、大学の規定による。成績評価の割合は、小課題20%、定期試験50%、講義・演習参加への姿勢・態度30%を総合的に判断し評定を実施する。</p>			

授業科目名： 工業科指導法A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 市原 靖士
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		
授業の到達目標及びテーマ			
1. 工業教育について理解する。 2. 普通教育としての工業教育について理解する。			
授業の概要			
高校生を対象とした工業教育として、1) 問題解決・課題解決力（工業教育に関する問題を技術的視野で認定し、課題化して、一定の制約条件の元で最適化を図りつつ解決する能力、2) 協同的行動能力（学習者の共同や協力及びそれらを前提とした分業・分担目標達成の鍵）を育成するための方策について指導する。			
授業計画			
第1回：工業教育とは何か			
第2回：授業とは何か			
第3回：授業設計（1）基本			
第4回：授業設計（2）教材研究と実践を含めた			
第5回：授業設計（3）情報機器を利用した			
第6回：指導案の書き方			
第7回：指導案の作成とグループワーク			
第8回：模擬授業とグループディスカッション			
第9回：工業科教育における技術の捉え方（1）機械科			
第10回：工業科教育における技術の捉え方（2）電気・電子			
第11回：工業科教育における技術の捉え方（3）建築・土木			
第12回：工業科教育における技術の捉え方（4）その他			
第13回：わが国の工業教育の現状			
第14回：アメリカ合衆国における工業教育			
第15回：工業科高校の授業内容の検討			
定期試験			
テキスト			
適時資料を配布、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）			
参考書・参考資料等			

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 工業編（平成30年3月 文部科学省）

学生に対する評価

学生に対する評価

1. 試験30%
2. レポート等 40%
3. 授業中の発表 30%

授業科目名： 工業科指導法B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 市原 靖士
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
1. 工業科の授業設計ができるようになる。 2. 工業科の学習指導法について理解できる。 3. 工業科の評価について理解できる。			
授業の概要			
新しい学力観に基づく工業科の学習指導を展開するために、配慮しなければならない視点について認識を深めた上で、工業科の授業をどのように展開するべきかについて考える。			
授業計画			
第1回：工業科の授業について			
第2回：一般的授業と工業科の授業の相違			
第3回：工業科の教育課程の歴史			
第4回：工業科の授業設計			
第5回：工業科の授業設計の実践（グループワーク）			
第6回：工業科の学習指導法（教材研究の方法を含む）			
第7回：工業科の学習指導法の実践（グループワーク）			
第8回：工業科の評価方法			
第9回：工業科模擬授業の方法論			
第10回：工業科模擬授業実践1			
第11回：工業科模擬授業実践2（グループディスカッション）			
第12回：情報機器を利用した工業科模擬授業方法1			
第13回：情報機器を利用した工業科模擬授業方法2（グループディスカッション）			
第14回：工業科授業の研究手法について1			
第15回：工業科授業の研究手法について2（グループディスカッション）			
定期試験			
テキスト			
適時資料を配布			
参考書・参考資料等			
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）			
高等学校学習指導要領解説 工業編（平成30年3月 文部科学省）			

学生に対する評価

1. 試験30%
2. レポート等40%
3. 授業中の発表 30%

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青野 篤
			担当形態： 単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業のテーマは、身近にある憲法問題から日本国憲法の全体像を学ぶことです。</p> <p>授業の到達目標は、以下の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本国憲法を学ぶうえで必要となる基本的な用語や考え方を理解できる。 2 日本国憲法が保障している主な人権の意義・内容・限界や、国会・内閣・裁判所の基本的役割について、判例も踏まえて、理解できる。 3 授業で取りあげる憲法問題について、自分の意見を持ち、相手に分かりやすく説明できる 			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、実際に起きた事件を素材にしながら、日本国憲法が保障する人権の意義・内容・限界について学ぶとともに、それを通じて国会・内閣・裁判所といった国家機関の基本的な役割を学びます。これにより、日本国憲法の全体像を把握し、その理解を深めます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：雇用における男女平等と憲法規範の特質</p> <p>第2回：法の下での平等（1）（平等の歴史・意味・性差別）</p> <p>第3回：法の下での平等（2）（平等違反の判断基準・社会的身分に基づく差別）</p> <p>第4回：信教の自由</p> <p>第5回：表現の自由（1）（表現の自由の意味・内容）</p> <p>第6回：表現の自由（2）（表現の自由の限界）</p> <p>第7回：営業の自由</p> <p>第8回：生存権</p> <p>第9回：教育権</p> <p>第10回：死刑制度</p> <p>第11回：自己決定権・子どもの人権</p> <p>第12回：プライバシーの権利</p> <p>第13回：外国人の権利</p> <p>第14回：平和主義</p> <p>第15回：改憲の可能性</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第4版補訂版〕』（有斐閣，2014年）

参考書・参考資料等

君塚正臣編『高校から大学への憲法〔第2版〕』（法律文化社，2016年）

学生に対する評価

期末試験（50％），小課題（小テスト・授業中のミニレポート等）（50％）で評価します。

授業科目名： スポーツ文化科学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 体育教員（複数）
			担当形態：クラス分け
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>・学生生活における身体活動（運動・スポーツ）の定着を目標とする。複数存在する開講授業内容を踏まえ、学生は自らのニーズに適合する内容を選択し履修する。具体的な到達目標としては、①運動・スポーツ活動の重要性を理解する、②「生涯スポーツ」活動の意味を理解する、③自らの志向性に応じた運動・スポーツの形態（種目）を見出す、こととする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>・複数の体育教員により開講される授業内容において、各種実技を実践する。</p> <p>・3回実施される講義において、実践する実技内容の意味及び歴史等を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（本授業の展開について）</p> <p>第2回：実技（各種目の基礎的運動形態の理解と実践）</p> <p>第3回：講義（生涯スポーツの意味理解）</p> <p>第4回：実技（各実技内容の基礎的練習・学習 その① 「楽しさ」の体験）</p> <p>第5回：実技（各実技内容の基礎的練習・学習 その② 技術の修得）</p> <p>第6回：講義（各実技（種目）の歴史的理解）</p> <p>第7回：実技（各実技内容のゲーム学習 その① ルールの理解）</p> <p>第8回：実技（各実技内容のゲーム学習 その② 戦術・作戦の理解）</p> <p>第9回：講義（現代社会におけるスポーツの意味）</p> <p>第10回：実技（各実技内容のゲーム学習 その③ 戦術・作戦の実践）</p> <p>第11回：実技（各実技内容のゲーム学習 その④ 戦術・作戦の応用）</p> <p>第12回：講義・演習（ゲーム学習の振り返り その① グループ戦術の作成）</p> <p>第13回：実技（グループ対抗のゲーム学習 その① 「競争」の楽しさを見出す）</p> <p>第14回：実技（グループ対抗のゲーム学習 その② グループ内共助を見出す）</p> <p>第15回：講義・演習（ゲーム学習の振り返り その② グループ戦術の振り返り）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし（適宜、担当教員より授業資料を配布する）</p>			

学生に対する評価

受講態度（出席状況）及びレポート課題、定期試験（実技含む）により総合的評価を行う。

授業科目名： 英語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 園井千音、佐々木朱美、大谷英理果
			担当形態： クラス分け
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>大学生にふさわしい語彙、文法力の強化、また多様な英語表現方法の実践を目指す。また、英語の総合的運用力育成のため、様々なトピック（科学、政治、社会、歴史等）について英語によるディスカッション（オーラルコミュニケーション、スピーキング含む）またはレクチャーを通し、英語によるプレゼンテーションやパラグラフライティングなどのアウトプット基礎的能力発展を目指す。原則として受講生の選択に基づき、可能な限り少人数クラス編成を行う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>大学生にふさわしい英語に関する論理的論文構成及びアウトプット方法（ライティング、プレゼンテーションなど）を習得させる。国際事情、文化、社会、歴史、宗教などの英語論文トピックにおける構築力、柔軟な思考力、批評力を促進する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション（担当 各クラス：園井千音、佐々木朱美、大谷英理果）</p> <p>第2回：トピックの選択について ブレインストーミングとライティング（担当 各クラス：園井千音、佐々木朱美、大谷英理果）</p> <p>第3回：トピックについてのディスカッション（オーラルコミュニケーションなど）とライティング（担当 各クラス：園井千音、佐々木朱美、大谷英理果）</p> <p>第4回：トピックセンテンスの作り方（担当 各クラス：園井千音、佐々木朱美、大谷英理果）</p> <p>第5回：英文パラグラフの構造と展開（担当 各クラス：園井千音、佐々木朱美、大谷英理果）</p> <p>第6回：テーマの主張とその補強の仕方（担当 各クラス：園井千音、佐々木朱美、大谷英理果）</p> <p>第7回：事実と意見の表現方法 ライティング（担当 各クラス：園井千音、佐々木朱美、大谷英理果）</p> <p>第8回：事実と意見の表現方法 ディスカッションとライティング（担当 各クラス：園井千音、佐々木朱美、大谷英理果）</p> <p>第9回：比較の表現方法 ライティング（担当 各クラス：園井千音、佐々木朱美、大谷英理果）</p> <p>第10回：比較の表現方法 ディスカッションとライティング（担当 各クラス：園井千音、佐々木朱美、大谷英理果）</p>			

第11回：問題提起と解決提示 ライティング（担当 各クラス：園井千音、佐々木朱美、大谷英理果）

第12回：問題提起と解決提示 ディスカッションとライティング（担当 各クラス：園井千音、佐々木朱美、大谷英理果）

第13回：英文パラグラフ復習1（スピーキングやプレゼンテーションなど）（担当 各クラス：園井千音、佐々木朱美、大谷英理果）

第14回：英文パラグラフ復習2（担当 各クラス：園井千音、佐々木朱美、大谷英理果）

第15回：まとめ（担当 各クラス：園井千音、佐々木朱美、大谷英理果）

テキスト

各クラスにおいて指示する。

参考書・参考資料等

各クラスにおいて必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

以下を総合的に判断し、評価する。

平素（講義における態度、提出物の有無、ディスカッションへの参加度など） 30%

英文パラグラフ2回程度提出 30%

小テストなど40%

授業科目名： 英語ゼミナールD	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐々木 朱美
			担当形態：単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1年次からの学習によって培った英語力をもとに様々な分野の英文読解や問題演習を実践することで、検定試験や実際のコミュニケーションに必要な英語力（語彙、文法運用力、読解力、聴解力、表現力、コミュニケーション力）を一層向上させることを目指す。また、英米の文学作品（散文と韻文）の講読を通して、英語を複数の異なる観点から分析的に読み批評する力を養い、言語に対する理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>TOEICの問題演習や英文読解、ディスカッションを通して、様々な種類の英文を迅速かつ正確に理解する力と実践的なコミュニケーションが可能な英語力を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：TOEIC Part 5（品詞）</p> <p>第3回：TOEIC Part 5（時制）</p> <p>第4回：TOEIC Part 5（前置詞、接続詞）</p> <p>第5回：TOEIC Part 5（代名詞、関係詞）</p> <p>第6回：TOEIC Part 5（比較、仮定法）</p> <p>第7回：TOEIC リスニングセクション</p> <p>第8回：英米詩の表現形式（英語のリズム、韻律、押韻）；TOEIC問題演習（品詞）</p> <p>第9回：英米詩の分析法（音読による韻律分析、構文分析）；TOEIC問題演習（接続詞、代名詞）</p> <p>第10回：英米詩の解釈；TOEIC問題演習（準動詞）</p> <p>第11回：散文の表現法；TOEIC問題演習（動詞）</p> <p>第12回：文学作品の英語（鑑賞とディスカッション）；TOEIC実践問題演習（基礎）</p> <p>第13回：翻訳の技法；TOEIC実践問題演習（中級）</p> <p>第14回：英語の表現方法；TOEIC実践問題演習（上級）</p> <p>第15回：まとめ</p>			
テキスト			

授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

授業中に必要に応じて適宜紹介する。

学生に対する評価

平素の学習状況（40%）、TOEIC演習問題の達成度（40%）、「文学作品の分析と解釈」についての課題提出（20%）をもとに総合的に判断し、評価する。

授業科目名： 情報処理入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉崎弘一 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会・情報倫理 ・ コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・ コンピュータを活用するための基本的な操作ができる。 ・ ビジネス文書と研究論文のための基本的な文書処理ができる。 ・ データ処理とグラフ作成のための基本的な表計算ができる。 ・ 情報を的確に伝えるための口頭発表用スライドが作成できる。			
授業の概要 コンピュータ利用の初心者を対象に、現代の情報社会で必要となる情報の収集、処理、表現の技術を習得し、コンピュータを道具として活用するための能力を身につける。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：情報処理の基本操作 第3回：ビジネス文書の作成 第4回：関数を用いた演算 第5回：相対参照と絶対参照 第6回：条件判定を用いる処理 第7回：条件を満たすセルの処理 第8回：数値データのグラフ化 第9回：研究テーマの情報収集 第10回：研究論文【文章構成とグラフ描画】 第11回：研究論文【資料と図の参照】 第12回：研究論文【論文の書式設定】 第13回：研究発表【スライド作成】 第14回：スライドの相互評価と情報技術が支援する学び 第15回：研究論文【論文の完成】 定期試験は実施しない			
テキスト 学習支援システムにWeb教材として掲載。			

参考書・参考資料等

- ・情報リテラシー アプリ編 Windows 10/Office 2019対応 (富士通エフ・オー・エム)

学生に対する評価

小課題 (88%) と研究論文 (12%)

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉野 敦
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目 ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>この授業は、①教育の基本的概念及び理念、②教育の歴史や思想、③教育・学校の歴史の変遷を理解した上で、④現代の学校教育が抱える諸課題について、教職の視点から考察を行うことを目的とする。具体的な到達目標としては、(1)教育の基本的概念及び理念に関する基礎的知識を身につけること、(2)教育の歴史や思想に関する基礎的知識を身につけ、教育や学校の歴史の変遷を理解すること、(3)上記の二視点に基づき現代の学校教育が抱える諸課題について、自身の教育観に基づいた考察を行うこと、である。</p>			
授業の概要			
<p>本授業において受講者は、自らが受けてきた家庭や学校における被教育経験を振り返りながら、教育の本質・目標について歴史的、社会的、思想的背景についての基礎的知識をもとに理解し、教育現場で生じる多様な現代的教育課題について自分なりの教育観に基づいた考察を行い、教師としての責任と使命の自覚を深めることを目指す。</p>			
授業計画			
第1回：「教育」とは何か			
第2回：「社会」と「学校」			
第3回：「教師」とは何か			
第4回：「教育」と「家族」			
第5回：「教える」と「学ぶ」			
第6回：教育と再生産			
第7回：子ども観の歴史の変遷			
第8回：教育思想史①：ルソーと			
第9回：教育思想史②：ペスタロッチ			
第10回：教育と「国家」			
第11回：教育と「近代」			
第12回：「いじめ」について考える			
第13回：「体罰」について考える			
第14回：教育における「競争」について考える			
第15回：振り返り：「教育の本質」を批判的に捉える			
定期試験			

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』2017年

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

学生に対する評価

毎時のワークシート（30%）、発表・ディスカッション等での積極性（10%）、期末レポート（60%）

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 清水良彦 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
【到達目標】			
1. 教職の意義や教師の役割、教師像の歴史的変遷に関する基本的な用語・考え方を理解し、これからの時代に求められる教師像を考察することができる。			
2. 教師の職務内容（研修・服務・身分保障等）に関する基礎的事項を理解し、学校教育に関する新聞記事やニュース等の分析を通して、具体的に教師の仕事の検討を行うことができる。			
3. ワークライフバランスやキャリア・アンカーなどの概念を理解し、教職生活全体を見通して適切に進路選択の判断を行うことができる。			
【テーマ】			
本授業は、教職の意義や教師の役割、教師像の歴史的変遷、職務内容（研修・服務・身分保障等）に関する基礎的事項を理解することを目的とする。さらに、教職という進路選択に資する各種機会や情報提供を行い、教師をめざす学生が進路選択について自ら検討・判断できるようにする。			
授業の概要			
本授業は、教職の意義、教師の役割・職務内容等に関する基礎的事項を学ぶための入門的な科目である。教師のライフコース全体を見通し、教員養成期・初任期・ミドル期・ベテラン期の各時期に必要な知識を身につけていく。また、統計データや諸外国の事例に基づいて、日本の教師の特性や固有の課題に関する理解を深めていく。そのなかで 教職に対する自らの適性を見きわめ、適切な進路選択の判断が行えるようにする。			
授業計画			
第1回：教師像を探る（オリエンテーション） ・ワーク「思い出の中の教師像」			
第2回：教師をめざす（教員養成の歴史・免許制度） ・ワーク「教員養成課程の変遷」			
第3回：教職を知る（学校制度） ・ワーク「教師の労働条件」			
第4回：待ちに待った「教育実習」／いざ教員採用試験に臨む ・ワーク「面接試験にチャレンジ」			
第5回：4年間の総仕上げ「教職実践演習」 ・ワーク「学習履歴の振り返り（履修カルテ）」			
第6回：教師の1日・1週間／学び続ける教師（研修・専門性）ワーク「教師の仕事进行分析しよう」			
第7回：授業づくりに燃える教師（授業） ・ワーク「1時間の授業をつくろう」			
第8回：生徒と向き合う教師（生徒指導） ・ワーク「いじめについて考えよう」			
第9回：学級経営に打ち込む教師（学級経営） ・ワーク「学級通信をつくろう」			

第10回：組織の中で働く教師（学校組織・チーム学校）／法の中の教師（服務） ・ワーク「教師が従うべき命令・規則とは」

第11回：ミドルリーダーとしての教師（ライフコース・人事異動） ・ワーク「これからのミドルリーダー」

第12回：家庭人としての教師（ワークライフバランス） ・ワーク「キャリア・アンカー」

第13回：キャリアの転機・長期派遣研修／教職大学院 ・ワーク「キャリアの転機」

第14回：学校経営を極める教師（管理職・地域連携） ・ワーク「SWOT分析」

第15回：未来の教師（理想・専門性） ・ワーク「未来予想図 part II」

定期試験

テキスト

元兼正浩監修『教職論エッセンス』花書院、2015年。

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領及び解説（平成30年度告示 文部科学省）、生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省）

学生に対する評価

【成績評価の基準】

ワークシートの分量及び内容、発表等の受講態度、期末レポートの分量及び内容

【成績評価の方法】

平常点70%（毎回のワークシート 45%、授業への積極的な参加 15%、受講態度・発表 10%）及び期末レポート30% により総合評価する。

授業科目名： 教育の制度と経営論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 住岡敏弘
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
現代の中等教育に関する制度的ならびに経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題について理解する。なお、制度的、経営的事項との関連のなかで、学校と地域との連携に関する理解を深めるとともに、学校安全への対応に関する基礎知識も身に付ける。			
授業の概要			
本講義では、現代の中等教育制度の意義、原理、構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的な知識を身に付け、そこに内在する課題について理解するとともに、学校や教育行政機関が有するそれぞれの目的とその実現の方法について経営の観点から理解する。なお、この講義では、制度的・経営的観点から、学校と地域との連携の意義や地域との協働の方法について理解するとともに、学校保健安全法に基づく危機管理を含む学校安全の目的と具体的取り組みについても理解を深める。			
授業計画			
第1回：公教育の原理と理念			
第2回：公教育制度を構成する教育法規（1）憲法と教育法制度の根本原理と中等教育			
第3回：公教育制度を構成する教育法規（2）教育基本法と教育法規の体系と区分			
第4回：教育行政制度の理念と仕組み（1）国の教育行政制度の理念と仕組み			
第5回：教育行政制度の理念と仕組み（2）地方教育行政制度の理念と仕組み・国と地方の相互関係			
第6回：教育行政制度の理念と仕組み（3）中学・高校の教員給与制度と教育財政制度			
第7回：現代の中等教育制度の特色と課題			
第8回：公教育の目的を達成するための学校経営			
第9回：学校経営過程と学校評価の仕組み			
第10回：学級経営の職務と方法—中学校・高等学校を中心に—			
第11回：「チーム学校」と教職員間・学校外の関係者／関係機関との連携・協働			
第12回：「開かれた学校づくり」の推進の経緯と必要性			
第13回：コミュニティスクールと地域との連携・協働			
第14回：学校の危機管理と学校安全の必要性と学校保健安全法			
第15回：「第2次学校安全の推進に関する計画」と中学校・高等学校の学校安全計画			
定期試験			

テキスト

現代の教育制度と経営（2016年4月 岡本徹／佐々木司編著）

参考書・参考資料等

新教育経営・制度論（2009年2月 佐々木正治／山崎清男／北神正行編著）

教師教育講座 第5巻 教育行財政・学校経営（2014年4月 古賀一博編）

「教育県大分」創造プラン2020改訂版（2020年3月 大分県教育委員会）

学生に対する評価

定期試験：80%、授業時のコメントペーパー：20%

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中里 直樹・藤田 敦
			担当形態：複数・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期から児童期、青年期に至る心身の発達過程の特徴とそれに関連する環境要因の影響について説明できる。 ・ 幼児、児童、及び生徒の学習に関する基礎理論を習得し、説明できる。 ・ 動機づけ、集団づくり、評価など主体的な学習活動を支え高める指導のあり方についての基礎的な考え方を理解し、説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>教育心理学の性格と課題、研究法、幼児・児童・生徒の発達の過程、学習と動機づけ、学級集団と学級経営、発達障害の理解と指導等に関する教育心理学の理論と技能を体系的に学び、教師に求められる基礎的な資質・能力を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育心理学の意義と課題（中里） 第2回：教育心理学の研究法（中里） 第3回：幼児期・児童期の発達過程（1）：知的発達（中里・藤田） 第4回：幼児期・児童期の発達過程（2）：愛着の発達（中里） 第5回：青年期の発達過程（中里） 第6回：学習の基礎理論（中里・藤田） 第7回：学習理論の応用（中里・藤田） 第8回：記憶・思考の理論（中里・藤田） 第9回：動機づけの理論（中里） 第10回：教育における評価（中里） 第11回：人間の発達に関する諸理論（中里） 第12回：パーソナリティと適応（中里） 第13回：発達障害、学習障害の理解と指導（中里） 第14回：学級集団の構造と学級経営の理論（中里） 第15回：学校カウンセリング（中里・藤田）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>やさしい教育心理学 第5版（鎌原雅彦・竹綱誠一郎著、有斐閣、2019年）</p>			

適宜，配布資料も用いる。

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省）

新・教職課程演習 特別活動・生徒指導・キャリア教育（藤田晃之・森田愛子編著，協同出版，2021年）

学生に対する評価

授業への積極的参加（ライティング課題，質問等）50% 期末試験50%

授業科目名： 特別支援教育論B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：古賀精治、衛藤裕司、古長治基 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を説明できる。</p> <p>2. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する特別の教育課程や支援の方法を説明できる。</p> <p>3. 特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援について述べることができる。</p>			
授業の概要			
通常学級に在籍する様々な障害（発達障害・軽度知的障害など）のある幼児、児童及び生徒に関し、学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対応するための、組織的連携や必要な知識・支援方法について学ぶ。			
授業計画			
<p>第1回：特別支援教育に関する制度（担当：古長治基）</p> <p>第2回：様々な障害の学習上又は生活上の困難（担当：古長治基）</p> <p>第3回：発達障害等のある幼児児童生徒の理解（担当：古賀精治）</p> <p>第4回：発達障害等のある幼児児童生徒への支援（担当：古賀精治）</p> <p>第5回：通級による指導と自立活動（担当：衛藤裕司）</p> <p>第6回：個別の指導計画と個別の教育支援計画（担当：衛藤裕司）</p> <p>第7回：発達障害等のある幼児児童生徒への支援体制（担当：衛藤裕司）</p> <p>第8回：その他の特別なニーズのある幼児児童生徒（担当：古賀精治、衛藤裕司、古長治基）</p>			
テキスト			
「改訂第3版 障害に応じた通級による指導の手引—解説とQ&A—」文部科学省著，海文堂出版，ISBN: 978-4-303-12416-8			
参考書・参考資料等			
<p>「小学校学習指導要領・小学校学習指導要領解説（平成29年4月告示）」文部科学省</p> <p>「中学校学習指導要領・中学校学習指導要領解説（平成29年4月告示）」文部科学省</p>			
学生に対する評価			
3回の小テストまたはレポート（90%）,1回のレポート（10%）により，総合的に評価する			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 清水良彦 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
【到達目標】			
1. 教育課程に関する基本的な用語・概念、教育課程の歴史の変遷、学習指導要領の変遷、現行学習指導要領の基本的な考え方を理解し、今後の教育課程の在り方を考察することができる。			
2. 具体的な授業実践について、カリキュラム研究・授業研究等の知見に基づいて批評するとともに、グループワークを通して解釈・分析を深めることができる。			
【テーマ】			
この授業は、教育課程の基本概念と教育課程編成の原理、教育課程の歴史の変遷と学習指導要領の変遷を理解すること、またそれらについて基本的な考え方・用語・概念を理解した上で、今後の教育課程の在り方を考察することを目的とする。			
授業の概要			
① 教育課程の基本概念と教育課程編成の原理、教育課程及び学習指導要領の変遷を理解する。			
② カリキュラム開発及びカリキュラム評価の方法を理解し、単元計画を作成する。			
③本科目はパワーポイントを使用した解説を中心に、テキスト資料、映像資料に基づいた考察や授業記録の検討、グループワークなどの学習活動を行う。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション／ワーク「思い出の授業」			
第2回 教育課程とカリキュラム／映像資料「サドベリーバレースクール」の検討 第3回 教育課程編成の原理：経験主義カリキュラムと系統主義カリキュラム			
第4回 学習指導要領の変遷とその背景／小テスト「学習指導要領の変遷」			
第5回 現行学習指導要領の特色／小テスト「現行学習指導要領」			
第6回 学力とは何か、OECDの能力構想／ワーク「基礎学力の再検討」			
第7回 教科書、副教材と著作権／ワーク「教科書分析」			
第8回 カリキュラムマネジメント（開発・実施・評価）の方法／課題「単元計画づくり」			
定期試験			
テキスト			
文部科学省『中学校学習指導要領 総則編』（平成29年3月公示）			

文部科学省『高等学校学習指導要領 総則編』（平成30年3月告示）

参考書・参考資料等

元兼正浩監修『教育課程エッセンス』花書院，2019年。

元兼正浩監修『最新版 教育法規エッセンス』花書院，2020年。

その他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

【成績評価の基準】

ワークシートの分量及び内容、発表等の受講態度、期末レポートの分量及び内容

【成績評価の方法】

平常点70%（毎回のワークシート 45%、授業への積極的な参加 15%、受講態度・発表 10%）及び定期試験30% により総合評価する。

授業科目名： 道徳の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉野 敦
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>本授業では、①学校における道徳教育の全般ならびに各種指導法とその基礎理論について理解すること、②道徳教育をより広い社会的文脈の中で理論的・事象的に把握し、道徳教育の実質化の方法を自分なりに考案すること、③着任後に備え、中学校での「特別の教科 道徳」を担当するための指導案を準備し、模擬授業を経験することを目標とする。</p>			
授業の概要			
<p>本授業において受講者は、学校での道徳教育を担うための知識を学び、実際に授業案を書く。また、代表者が模擬授業を行い、その授業を観察することで、授業づくりについてのイメージを深める。それらを通じて、教師となった後も道徳教育を深め続けられることを目指す。</p>			
授業計画			
第1回：導入：「道徳」とは何か			
第2回：道徳教育の歴史			
第3回：道徳の基礎付け			
第4回：道徳性の発達段階			
第5回：学校における道徳教育の目標と内容			
第6回：道徳科の指導計画			
第7回：道徳科授業の展開方式と指導案			
第8回：道徳科の指導法①：役割演技			
第9回：道徳科の指導法②：モラルジレンマ授業			
第10回：道徳科教材研究①：教科書			
第11回：道徳科教材研究②：多様な教材にふれる			
第12回：道徳科の評価			
第13回：指導案の作成と模擬授業①			
第14回：指導案の作成と模擬授業②			
第15回：振り返り：道徳教育の今日的課題			
定期試験			
テキスト			
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』2017年			

———— 『小学校学習指導要領（平成20年告示）解説 特別の教科 道徳編』2017年

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

学生に対する評価

毎時のワークシート（20%）、模擬授業（20%）、学習指導案（20%）期末レポート（40%）

授業科目名： 総合的な学習の時間の 理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 牧野治敏 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合的な学習の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：総合的な学習の時間と他教科との関連に着目し、効果的な学習活動を設計するための基礎的な知識・技能を身につける。 到達目標：総合的な学習（探究）の時間の役割を、中学校・高等学校で育成すべき資質能力の観点から説明できるとともに、地域の事象を教材として、教科横断的な観点を持ちながら、他者の意見を尊重しつつ学習し、深い理解をえられる授業を設計できる。			
授業の概要 総合的な学習の時間について、学習指導要領、学習指導要領解説編に沿って、各学校の実践事例を紹介しながら講義するとともに、講義内容を踏まえて自らの指導を想定した授業案をグループで設計する。また、作成した授業案をピアレビューにより完成度を高め模擬授業を行う。			
授業計画 第1回：総合的な学習の時間の学習指導要領上での位置づけについて（講義） 第2回：探究的な学習活動と課題解決学習について（講義） 第3回：中学校・高等学校での年間指導計画に基づいた実践事例の紹介（講義） 第4回：総合的な学習の時間における評価の考え方と具体的な手法について（講義） 第5回：授業案を作成するための調べ作業（個別作業） 第6回：授業案作成の実習（グループワーク） 第7回：作成した授業案のピアレビューとジグソー法による情報の共有（グループワーク） 第8回：模擬授業、授業の振り返り（グループワークと講義）			
定期試験			
テキスト 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年3月）文部科学省			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領（平成29年3月）、高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成21年7月）文部科学省			
学生に対する評価 定期試験（50%） 毎回の授業の最後に提出する小レポートまたはグループワークによる制作物（50%）			

授業科目名：特別活動の方法と理論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長須 正明 担当形態：単 独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 ・特別活動の方法と理論		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>特別活動は、学校における様々な集団での活動体験を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。この授業では学校教育全体における特別活動の意義を理解し「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、各学年における活動の変化、各教科等との関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付けることを目標とする。あわせて、現在の学校における特別活動の諸問題について教員としての視点から自分の考えをもち、それを諸法規・諸規定に照らし、現実即して「なぜそうするのか？」を自分の言葉で表現し、説明できるようになることが到達目標である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中等教育の教育課程における特別活動の位置づけを理解する。そのうえで、中等教育の特別活動の目標や各内容の機能や課題を理解する。さらに、指導計画・内容の取扱いを理解しながら指導案づくりに取り組む。特別活動を実践できる知識や技能の修得を目指す。実際の学級活動／ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事について、映像教材等を用いてケース・スタディとして、具体的に「特別活動」を理解できるように配慮する。</p>			
<p>授業計画：</p> <p>第1回．特別活動とはなにか？</p> <p>第2回．特別活動の目的と今日的意義・・学習指導要領から考える</p> <p>第3回．特別活動の本質と内容</p> <p>第4回．学級集団の形成と組織類型論から見た学級</p> <p>第5回．学級指導と目的としてのリーダーシップ</p> <p>第6回．特別活動の指導方法（1）方法としての集団活動と集団の規範</p> <p>第7回．特別活動の指導方法（2）集団活動の進め方</p> <p>第8回．特別活動の実際（1）学級活動（HR活動）</p> <p>第9回． " （2）児童会・生徒会活動（クラブ活動）</p> <p>第10回． " （3）学校行事</p>			

- 第11回. 特別活動の指導案をつくる (1) 学級活動・・キャリア教育を中心にして
 第12回. 特別活動の指導案をつくる (2) 生徒会活動/学校行事を中心にして
 第13回. 特別活動を通して何が得られるのか～あらためて「教育」を問う
 第14回. 特別活動と道徳・総合的な学習の時間の関係
 第15回. 授業のまとめとレポートの作成について

テキスト

とくに使用しない (授業担当者が作成したプリント資料とワークシートを使って授業を展開)

参考書・参考資料等

藤田晃之編 2017『中学校新学習指導要領の展開 平成29年版特別活動編』、明治図書出版.

文部科学省 2019 『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』, 東京書籍.

河村茂雄編 2018『特別活動の理論と実際』, 図書文化社.

その他、プリント等を適宜配布する

学生に対する評価

成績の評価は授業時のコメント・ペーパー (50%) と学期末のエッセイ (50%) による。評価のポイントは問題意識、自己の経験や現実をふまえた意見の展開、諸法令・法規を踏まえたうえでの発想の柔軟性と豊かさ。より楽しい学校にするための学級づくり、人とのつながりなどに役立つユニークな意見、経験に基づく大胆な発想を大いに期待している。毎時間出席して、事例について考え、ディスカッションに参加することが求められる。

授業科目名： 教育方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 清水良彦
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業の到達目標】			
1. 教育方法に関する基本的な用語・概念を理解する。			
2. 授業実践や学びについて授業デザインや教材の開発、教師教育などの幅広い視点から考察することができる。			
3. グループで協働して学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業を実施することができる。			
4. 具体的な授業実践について、グループワークを通して解釈・分析を深めることができる。			
【テーマ】授業づくりのための理論と実践			
授業の概要			
この授業は、①教育方法の理論と実際について、基本的な学習論の用語・概念を理解した上で、②授業実践に対する見方や考え方（実践的見識）を身につけることを目的とする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：授業の今日的な課題：「学び」の質の変化			
第3回：授業デザインの考え方と方法／模擬授業づくり①（個人ワーク）			
第4回：教科書・副教材と授業づくり／模擬授業づくり②（グループワーク・教科ごと）			
第5回：模擬授業をやってみよう：各教科・各グループの模擬授業①			
第6回：模擬授業をやってみよう：各教科・各グループの模擬授業②			
第7回：授業研究の方法(1)授業研究・授業分析の原理と方法／授業記録の検討（個人）			
第8回：授業研究の方法(2)授業記録の検討（グループワーク）／講義のまとめ			
定期試験			
テキスト			
文部科学省『中学校学習指導要領 総則編』（平成29年3月告示）			
文部科学省『高等学校学習指導要領 総則編』（平成30年3月告示）			
参考書・参考資料等			
元兼正浩監修『教育課程エッセンス』花書院，2019年。			
元兼正浩監修『最新版 教育法規エッセンス』花書院，2020年。その他は授業中に紹介する。			

学生に対する評価

平常点 50% (毎回のワークシート 40%、受講態度・発表 10%)

模擬授業 25% (学習指導案15%、模擬授業10%)

定期試験 10% (期末レポート) により総合評価する。

授業科目名：情報通信 技術を活用した教育 の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 中原久志 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>情報通信技術を活用した教育の理論及び方法では、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導方法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育におけるICTの利用に関して理論やその背景を理解し、教育活動において効果的に活用できるための基礎的内容を取り扱う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：個別最適な学び，協働的な学び，主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善のための 情報技術の活用の意義と在り方</p> <p>第2回：特別な支援を必要とする児童生徒に対する情報技術を活用した指導，外部人材・機関 との連携の在り方</p> <p>第3回：情報通信技術を効果的に活用した指導事例・実践事例</p> <p>第4回：校務支援システムの効果的活用と学習履歴，学習評価，教育情報のセキュリティにつ いて</p> <p>第5回：遠隔・オンライン教育の意義とシステム構成</p> <p>第6回：教科の特性に応じた情報活用能力（情報モラルを含む）とその指導方法について</p> <p>第7回：生徒に対する情報通信機器の基本操作の指導方法</p> <p>第8回：前半：情報通信技術を活用した授業設計・教材作成 / 後半：定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>高等学校学習指導要領</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>教員が配布する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート等の課題（50%），試験（50%）</p>			

授業科目名： 生徒指導の理論と方法 (進路指導を含む。)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長谷川祐介 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
生徒指導の意義と原理を理解する。 学校におけるいじめや不登校など問題行動への対応について理論や指導方法を理解する。 進路指導とキャリア教育の意義ならびに指導のあり方について理解する。			
授業の概要			
学校教育における生徒指導に関する意義や児童生徒理解と指導の実践方法に関する学習、ならびに進路指導ならびにキャリア教育の意義と指導に関する学習を通して、学校教員として求められる実践的指導力の基礎を培う。また受講生同士による意見交換等を通して、生徒指導や進路指導・キャリア教育における具体的な指導・支援の方法を受講生が主体的に考え、理解することを旨とする。			
授業計画			
第1回：生徒指導とは何か：生徒指導の定義			
第2回：生徒指導の意義と原理：生徒指導の意義、課題、発達観、指導観			
第3回：教育課程と生徒指導：教科等における生徒指導			
第4回：集団指導・個別指導の方法原理			
第5回：生徒指導体制：生徒指導の組織、教育相談体制、全校指導体制の確立			
第6回：児童生徒全体への指導：組織的な取り組み、日常生活の指導			
第7回：生徒指導に関する法令：校則、懲戒、体罰			
第8回：問題行動への対応（1）：いじめ、不登校			
第9回：問題行動への対応（2）：今日的な課題と関係機関との連携			
第10回：進路指導・キャリア教育（1）教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け			
第11回：進路指導・キャリア教育（2）学校の教育活動全体を通じたキャリア教育			
第12回：進路指導・キャリア教育（3）進路指導・キャリア教育の指導体制			
第13回：進路指導・キャリア教育（4）職業に関する体験活動			
第14回：進路指導・キャリア教育（5）ガイダンス機能を生かした進路指導・キャリア教育			
第15回：進路指導・キャリア教育（6）児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題への対応			
テキスト			

文部科学省（2010）『生徒指導提要』教育図書

参考書・参考資料等

文部科学省（2011）『中学校キャリア教育の手引き（改訂版）』

学生に対する評価

課題レポート：60% 授業時のコメントペーパー：40%

授業科目名： 教育相談の理論と実際	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋淳一郎
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 中学校や高等学校の現場で起こる様々な教育相談に関わる諸問題について、背景としての社会的課題を踏まえながら理解を深める。</p> <p>2. 中学生や高校生に発生しやすい心理的な問題について理解する。</p> <p>3. 学校現場で起こる教育相談上の諸問題について、教師として学校での生徒や保護者への対応や支援のあり方、教職員・スクールカウンセラーとの連携のあり方、外部専門機関との連携など、実際の事例を挙げながら実践的に学ぶ。</p>			
授業の概要			
<p>中学校や高等学校の現場で遭遇する種々の問題に対処するために、カウンセリングの基礎的知識を含む基本的・実践的な考え方や態度・技法を身につける。具体的な事例について教育臨床的な視点から問題を理解し、対応のあり方について具体的に論じる。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション・現代社会における教育相談の意義			
第2回：子どもの発達の特徴と思春期の理解			
第3回：思春期に起こりやすい発達上の諸問題			
第4回：虐待の原因と子どもへの影響			
第5回：不登校の子どもの理解とかわり			
第6回：いじめへの対応			
第7回：発達障害の理解とかわり①（発達障害とは・知的障害・学習障害）			
第8回：発達障害の理解とかわり②（ADHD・自閉症スペクトラム）			
第9回：暴力行為と非行問題の理解			
第10回：カウンセリングの基本的理論			
第11回：カウンセリングの基本的技法			
第12回：アセスメントの方法①（理論および効用と限界について）			
第13回：アセスメントの方法②（演習）			
第14回：カウンセリングにおける予防・開発的援助			
第15回：スクールカウンセラーおよび外部機関との連携			
定期試験			

テキスト

「現代の子どもをめぐる発達心理学と臨床」次良丸睦子・五十嵐一枝・相良順子・芳野道子・高橋淳一郎(編著) 福村出版

参考書・参考資料等

講義中に適宜紹介する

学生に対する評価

授業後に提出するリアクションペーパーの記載内容をトータルで30%、定期試験を70%として評価する。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習	単位数：2単位	担当教員名：住岡 敏弘
科目	教育実践に関する科目（教職実践演習）	
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1) ○ 学校現場の意見聴取(※2) ○
受講者数	355人(最大),受講者は学部・学科(プログラム)ごとにクラス分けする。1クラスは,おおよそ20人程度	
教員の連携・協力体制 担当教員の他に,教職実践演習を履修する学生が所属する学部・学科の教員,教職経験のある実務家教員も加わり,教職に関する教員と教科に関する教員が指導を実現できる体制を構築する。また,大分県教育委員会及び大分市教育委員会との連携により,教職経験のある教員の指導を可能にしている。		
授業のテーマ及び到達目標 1. 教員の使命及び生徒への責任を理解する。 2. 教員としての基本(教育的愛情,倫理観,社会性,及び対人関係能力等)を身に付ける。 3. 生徒の発達の過程及び学習の定着状況を把握する方法を理解する。 4. 教科内容等の専門知識を十分にもち,確かな指導技術を身に付ける。 5. 学級経営を行い,生徒を一つの集団にまとめていく実践的な指導技術を身に付ける。 6. 授業を行う上での基本的な表現力を身に付ける。		
授業の概要 1年次より学びの記録を蓄積してきた履修カルテを手掛かりとして活用し,教職課程(教職に関する科目,教科に関する科目)の履修及び教育実習を通じて,教員としての必要な資質能力が形成されているかを最終的に確認する。授業は,教職担当教員がとりまとめ役となり,履修する学生が所属する学部,学科の教員が共同で担当する。第2回および第12回～第14回では市教委・実務家教員が指導を行う。		
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：「現代の教育問題 期待される教師像」についての講義(実務家教員の参画) 第3回：グループによる事例研究(事例決定) 第4回：グループによる事例研究(グループ討議と発表原稿の作成) 第5回：グループでの研究発表と討論 第6回：グループごとのロールプレイ(全体説明,デモンストレーション) 第7回：グループごとのロールプレイ(場面設定とディスカッション用紙の作成) 第8回：グループごとのロールプレイ(場面設定と自己評価作成) 第9回：学級経営について(校長の講義及びまとめ) 第10回：学級経営について(学級経営についてのディスカッション,小レポート) 第11回：模擬授業：わかる授業・伝える授業の構想・指導案の作成 第12回：模擬授業：模擬授業の実施(グループ1,グループ2)・討論(実務家教員の参画) 第13回：模擬授業：模擬授業の実施(グループ3,グループ4)・討論(実務家教員の参画) 第14回：模擬授業：模擬授業の実施(グループ5,グループ6)・討論(実務家教員の参画) 第15回：これからの学校教育と自己の課題について(討論)		

テキスト

特になし。適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領，中学校学習指導要領

学生に対する評価

- ・ 事例研究・ロールプレイ・学級経営・模擬授業に関する小レポート (80%)
- ・ 最終レポート (20%)

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。